

内藤湖南の日本文化史論について

長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

劉璐

本論文は主に日本国民の文化的素質と独立性、応仁の乱を巡る独創的な文化論、「日中交渉史」から論じる日本文化の形成と発展についての論考を検討することにより、内藤湖南の日本文化に関する論考の特徴を究明しようとするものである。

各章の概要は、以下の通りである。

序章では本研究の研究動機、内藤湖南に関する先行研究、研究方法について述べる。

「日本国民の文化的素質と独立性」と題した第1章では、内藤湖南の文化に関する定義を踏まえ、目録学を巡って日本は文化を持っている国家であることを論証する。内藤湖南によると、和歌、物語、神の国、万世一系の皇室、神道の伝授、文物の保存というものは日本文化の中心的内容である。それによって、文化国民という概念を引き出してさらに国語の教育の重要性を強調し、各時代の教科書の編纂を巡って日本の国民文化の成長について具体的に説明する。内藤湖南により、教育は主に3つの時代に分けられる。前半は公家教育を主とした時代で、後半の最初は中流教育の時代で、最後は庶民教育の時代である。国語の教育を通じて国民の文化的要素が形成され、教科書の編纂と使用をすることで教育が広がり、教育が普及することにより、国民の文化的要素が出来たということである。それに、大阪の町人と学問を背景として、大阪の学問の起源、興起、没落、暗黒時代という4つの時代を対象として集中的に民衆の文化的要素を探求する。国民の文化的要素の形成は日本文化の独立を明示し、教科書の変遷することを通して、日本文化の独立ということが分かると思われる。

「独創的文化論——応仁の乱を巡る論考」と題した第2章では、主に応仁の乱を巡って内藤湖南の独創的な日本中世文化論を展開する。応仁の乱に関して下剋上の反乱になった暗黒の時代であることは日本の歴史学上の一般的な認識であるが、内藤湖南は異なる認識を持っており、日本の歴史上の画期的な事件で、日本文化が形成されるきっかけだと考えられる。彼によると、大体今日の日本を知る為に日本の歴史を研究するには、古代の歴史を研究する必要はほとんどない。応仁の乱は日本の歴史上において非常に大切な時代であり、まったく日本を新しくしてしまったのである。この時代に足輕という階級が目立つようになって、下剋上といったものが出てきたが、それは最下級のものがあらゆる古来の秩序を破壊し、もっと烈しい現象をもっと深刻に

考え、下の階級からこの時代に対して考える感想を現したものである。この騒々しい時代であるからこそ日本人のあいだで初めて自分の歴史を必死に残そうとする意識が生まれた。それは内藤湖南の「発想の転換」の所産であった。

「日本文化の形成・発展論——『日中交渉史』から論ずる」と題した第3章では、主に「日本文化の形成・発展論」という内容を巡って内藤湖南の日本文化論を展開するのである。この章では「ニガリ説」及び「螺旋循環史観」という二つの内藤湖南の重要な論述を論究したいと思う。「ニガリ説」及び「螺旋循環史観」に基づいて、「日本上古の状態」、「日本古代中央集権国家の形成」、「天平文化」、「平安朝の漢文学」という代表的な4つの時期を選び取って日本古代の唐代文化の受容状況に関して論考を行う。最後は、内藤湖南の「時」を経とし、「土」を緯とする時空座標の文化論に基づいて、日本近世の宋明儒学の受容、儒学の「日本化」及び近代の「新学の先駆」を巡って論述を展開する。これは内藤湖南の日本文化に関する形成・発展論であると思われる。

終章では、主に日本国民の文化的素質と独立性・応仁の乱を巡る論考・日中交渉史という三つの視点から、内藤湖南の文化論・文化影響論・独創的な中世文化論・日本文化交渉史論を考察する。国民性を文化の基本的要素とする文化論には、内藤湖南の文化に関する考えが独創性を持っている。国民性を文化の基本的要素とすることが内藤湖南の中心的思想である。国民性についての関心は国民国家の成立に伴う国民のアイデンティティ形成の必要から生じてきたのである。螺旋循環史観という文化影響論にも、独創性を持っている。内藤湖南は文化の発展を天体の運行することにとえ、文化全体の発展は三次元空間の文化の継承、融合と発展する過程であると考えていた。応仁の乱を日本文化の創出する契機とする中世文化論には、さらに独創性がある。応仁の乱以後の日本はたくさんの変化が起きてきた。中華文化は日本文化のニガリとする日本文化交渉論には、内藤湖南は独創的に日本文化というものとは豆腐の作るように、もともと豆腐になる素質を持っていたが、これを凝集さすべき他の力が加わらずにあったので、中国文化はすなわちそれを凝集させたニガリのようなものであると考えている。文化受容の古代、文化の創出される萌芽の中世、文化形成の近世という三つの時期を通じて日本文化がついに形成されるということが分かる。

以上は内藤湖南の独創的な日本文化史論であると考えている。